



# みくびびだより

平成21年12月1日発行  
御首神社社務所

## 御挨拶

拜啓 師走の候、皆様方に於かれましては愈々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年、天陛下御即位二十年と言う目出度い年を迎え又、両陛下御結婚五十年の慶賀の年でもあり、全国的にさまざまな奉祝行事が行われました。日本会議岐阜県本部に於いても、去る十月十七日に岐阜市の文化センターで式典が盛大に執り行われ、夜は県民挙つて心からなる感謝の誠と敬慕の念を謹んで捧げようと大勢の人々が「天陛下万歳」の声とともに日の丸の小旗を振り、提灯の灯りをゆらしながら市内を練り歩き、街中が奉祝ムードに満ちておりました。

国民の幸せを絶えず祈り続けておられるのが天陛下下であります。そして国民は天皇をお慕いし、感謝しお守りするという建国以来の麗しい伝統を守り、両陛下のご長寿を願い、益々の皇室の弥栄をご祈念申し上げます。

伊勢神宮では平成二十五年度の遷宮に先立ち、去る十一月三日宇治橋の渡始式が「渡女」を先頭に全国各地から選ばれた三世代揃った夫婦に続いて、全国の関係者や市民が新橋を渡つてお祝いをされました。遷宮の諸行事が着々と進む中、四年後の秋の遷御の大儀が大いに待たれるところであります。

当神社では境内の整備や清掃など、迎春の準備に追われる毎日ではございますが、職員一同全国各地からの初詣の方々に、清々しく御参拝頂きますようお願い申し上げます。又、今度崇敬会の奉納により、正面鳥居前の大幟を新たに取替えさせて頂きましたことをここに厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々御健康とご多幸を祈念いたしましてご挨拶とさせて頂きます。

## おおくにぬしのかみ くにづく 大国主神の国造り

(古事記より)

因幡の白兔を助けた大穴牟遲神は出雲国へ戻る途中、須左之男命のところへ行きました。そこで須左之男命に「大穴牟遲よ、出雲へ戻ったら大国主神と名乗り国をまとめるのだ。」と言われました。

出雲国に着くと早速、大穴牟遲神は大国主神と名乗り、国をまとめる事にしましたが、いい考えが浮かばず、しばらく海を見ながら悩んでいました。

すると、海の上に何かがプカプカと浮かんでいるのを



見つけました。「おや?」と思い、周りにいた神さまたち「誰か、あれが何だか知っていますか?」と聞きましたが、知る者は誰もいません。皆が首を傾げていると、近くにいたガマガエルが「もしかしたら、久延比古なら知っているかも知れないゲロ。久延比古は何でも知っている物知りだゲロ。」と言ったので、すぐに久延比古に聞きに行くと「さすがは久延比古です。「ああ!あの浮いているのは、えらい神さまですよ。確か、神産巢日神さまのお子さんと少名比古那神という方です。」とすぐに答えました。そこで大国主神は神産巢日神に、それが

正しいかを確認してみると「何と！あれは私の子だ。知らないうちに指の間からこぼれ落ちて、あんなところに浮いていたのだな。」と言い、少比古那神に向かって「おい少比古那よ、お前はこれから大国主神の手伝いをして、立派な国を造るんだぞ。」と呼びかけました。それからは、大国主神と少比古那神は力を合わせていつしよけんめい国造りをして行きました。

国造りが進み、終わりに近づいた頃、少比古那神は突然に常世国（死後の世界）へ行ってしまいました。大国主神はまた一人になってしまい「少比古那神よ、なぜ行ってしまったのですか…。この先いつたいてどうすれば良いのだろうか。…」と悩んでしまいました。

その時、見知らぬ神さまが遠くより海を照らしながら大国主神へ近づいてきて「大国主神よ、国造りを成功させたくば、大和国（今の奈良県）の立派な山の頂上に神社を建て、私を大切に祀るのだ。さすれば、私はそなたに協力しよう。もし大切に祀らぬと言うなら、そなたの国造りは必ず失敗に終わるであろう。」と言いました。それを聞いた大国主神は、この光り輝いている神さま

はきつと立派な神さまに違いないと思い「分かりました。言うとおりにします。」と言ってすぐ神社を建て、その神さまを大切にお祀りしたのです。すると国造りは順調に進み、立派な国が出来上がって行きました。その国は葦原の中つ国と呼ばれました。 つづく



おとつさん おかささん おじちゃん おばあちゃんへ！

今回の「大国主神の国造り」は大国主神が葦原の中つ国を造って行く神話を元にししました。大和国に建てられた神社が、現在の奈良県にある大神神社で、その光り輝く神様が大神主神であると言われております。私たちが知って神話は単なる物語ではなく、我が国の祖先から受け継がれてきた心との出会いの場です。是非お子さまやお孫さまと一緒に読み頂き、子供たちの情操が少しでも豊かになりましたら幸いです。



## 祭事報告

農休み祭

西宮神社例祭

末廣稻荷神社例祭

夏越大祓

猛暑の中、多数のご参列を頂き、大祓神事を斎行致しました。大祓神事では、皆様方が罪・穢を託されました人形(ひとがた)を忌火にてお焚き上げ致しました。

長寿祈願祭

神明神社例祭

七五三参り

六月二十一日

七月十七日

八月九日

八月九日

九月十五日

十月十七日

十一月 中

崇敬会大祭  
新嘗祭

十一月三日

十一月二十三日

七五三のご祈  
禱を十一月を  
中心に執り行  
いました。

七五三参り  
は、神様に子  
供の無事成長  
を奉告し感謝  
申し上げ、今  
後一層のご守  
護を願う人生  
儀礼の一つで  
す。

問 ご祈禱を受ける時にご祈禱料を包む場合  
また、お酒を御供えする際は表書きにそれぞ  
れどう書いたら良いですか？

答 ご祈禱などの場合は、一般的に「玉串料」  
や「初穂料」などと記して頂ければ良いかと  
思います。また、お酒に關しましては「御供  
や」「献酒」などで結構でしょう。

問 神社で御守りを受けた時「初穂料」と聞  
きました。なぜ「初穂」と言うのですか？

答 古来より、日本人は農耕民族として神社  
と深い関わりをもち、春には豊作を祈り、秋  
にはその収穫に感謝し「初穂」を御供えされ  
て来ました。それが次第に「季節の初物」に  
変化し、やがては初穂の代わりに「金銭」を  
納めるようになり、「初穂料」と呼ばれるよ  
うになったと言われております。

纏め 今回は、神社での金銭の表記について  
取り上げました。特に熨斗や封筒の表書きに  
ついて、社頭や電話でもよく質問を受けます  
「玉串料」は櫛・玉串を奉る際に用いる言葉  
で、ご祈禱を受けられる時などに使用するの  
が本義でしょう。御供えを捧げたり又、お守  
りなどを受ける際に用いられるのが「初穂料」  
です。しかしながら現在、厳密にそれらを使  
い分けてはおりません。あまり形式に囚われ  
ず、「初穂料」「御供料」「御礼」など素直

御首神社ホームページ  
神職への質問FAQ

にお書き頂いたらいかがでしょうか。



ホームページ

リニューアルのご案内

平成十二年に当社のホームページを開設し  
平成十六年十二月に一回目のリニューアルを  
いたし、はや五年余りが経過しました。

この度、平成二十二年を迎えるに当たりま  
して、二回目のリニューアルを予定いたして  
おります。今回は、画面構成を始め従来のス  
タイルを大きく変更する為、その道に精通し  
ましたアドバイザーの指導のもと、今の時代  
に即したホームページに仕上げるべく、制作  
を進めております。

つきましては、年明けに当社のホームペ  
ージを【クリック】頂きまして、ご覧頂けます  
れば幸いです。また、些細な事でも  
構いませんので、ご意見ご感想などございま  
したら御参拝の折に、お聞かせ願えれば嬉し  
く存じます。

厄年と年祝い

厄年に当たる年回りは、社会的にも肉体的にも精神的にも大きく変化する転換期であります。

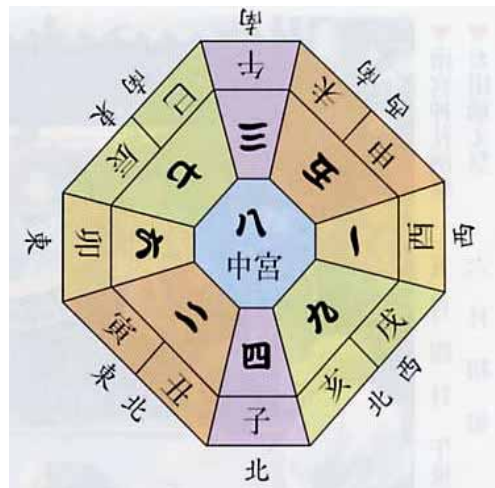
例えば、日常生活に於いて、身体が病弱になり悩んだり、仕事が思い通りに行かなくなったり又、安心して生活することが出来なくなったり等、様々な悩み事が起こり易くなります。これらは、人生の節目の年だからこそ起きうることでないでしょうか。

昨今では、長生きされる人が多く算賀を祝して七十歳が古希・七十七歳が喜寿・八十歳が傘寿・八十八歳が米寿・九十歳が卒寿・九十九歳が白寿と言い、お祝いされるようになってきました。

ご参考

平成22年 年祝い一覧		
算賀	数え年	対象年
古き稀	70歳	昭和16年生
きじゆ喜寿	77歳	昭和9年生
さんじゆ傘寿	80歳	昭和6年生
べいじゆ米寿	88歳	大正12年生
もつじゆ卒寿	90歳	大正10年生
はくじゆ白寿	99歳	明治44年生

平成二十二年方位図



高島暦参考

古くよりこれら年祝いは、厄年としてより長寿に感謝し神様のご加護を戴き、今後益々健康で楽しい人生を過ごせますようにと願い、行われてまいりました。又、最近、方位に関する祈願の要望が多くなってまいりました。方位とは、古代中国の陰陽五行説や九星術等、暦学の考えに基づき吉凶を判断するもので、一人一人が持つて生まれた年回りを表にしたものが多く見られます。八方塞がりとか鬼門と言った言葉を、一度は耳にしたことがあると思いますが、これらは犯してはならない方位とされており、尚、年祝いの御祈禱や方位に関する御祈禱も順次執り行なわせて頂きますので、社務所受付迄お申し出下さい。

崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会員の特典(抜粋)

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭・秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈禱神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈禱致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員の方は昇殿参拝が許されます。

本年度崇敬会よりの奉納

- 一、御首神社鳥居前特大幟
  - 一、末廣稻荷神社参道幟
- 以上有り難うございました。

祭事案内

年越大祓 十二月三十日 午後三時  
皆様からお預かり致しました人形(ひとがた)を大祓神事でお焚き上げ致します。



元旦祭 一月一日 午前0時  
国の隆昌と世界平和又、氏子崇敬者の繁栄と御多幸を祈念し齋行致します。  
左義長 一月十五日 午前十時  
御神札やお守り、注連縄・お正月飾り等縁起物をお焚き上げる神事であります。  
浄火祭 一月三日 午前十時  
皆様が奉納されました帽子や祈願絵馬・祈禱の際、御神前に奉つて頂きました金幣串や自宅の神棚等で祀られました紅白串を心願成

就を願ひ忌火にてお焚き上げいたします。  
この日に限りまして、ご不要になりました帽子がございましたら、各自お持ち頂き、お早めにお焚き上げ下さい。

祈年祭 二月二十一日 午後三時  
御鞆神社例祭 三月十七日 午後三時  
例大祭 四月二日 午後三時  
年に一度の大祭です。

神事は、午後三時より厳肅の中、齋行されます。氏子の子供達による打ち囃子の奉納や子供御輿のご巡幸又、境内の特設舞台では歌謡等の演芸が催され、終日賑わいをみせます。皆様の御参拝を心よりお待ちしております。



南宮神社例祭 五月四日 午後三時  
お田植え祭 六月初旬  
農休み祭 六月二十日 午後三時

厄除開運祈禱

男子 二十五歳 四十二歳 六十一歳  
女子 十九歳 三十三歳 三十七歳

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び、何かとままならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。  
厄年に当たる方は勿論のこと、厄年に当たらない方も日々を平穩に過ごして頂くためにも、一年に一度は厄抜いの御祈禱をお受けになりますよう、お勧め致します。

平成22年厄年に当る生れ年			
	前厄	本厄	後厄
男子	61歳 昭和26年	昭和25年	昭和24年
	42歳 昭和45年	昭和44年	昭和43年
	25歳 昭和62年	昭和61年	昭和60年
女子	37歳 昭和50年	昭和49年	昭和48年
	33歳 昭和54年	昭和53年	昭和52年
	19歳 平成5年	平成4年	平成3年

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一  
TEL(〇五八四)九一 三七〇〇  
ホームページ www.mikubi.or.jp  
Eメール syamusyoo@mikubi.or.jp